

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども家庭支援センターゆめわかば		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 15日		2025年 2月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年 1月 15日		2025年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	四季を通して活動が、充実するように努力している。	・文化的活動を念頭におきながら、職員一同で活動の中身を検討し実践を実施している。 ・子ども年齢の幅や特性、テンポの違いがある中で、相手を知り少しずつ互いを認め合いつなげている。	・子どもたちが、主体となって取り組める活動を目指す中で、さらにこんなこともやってみたい、と挑戦しチャレンジできるような中身を作りこむ。体験を通して、手応えや個々の自信につなげられる取り組みをしていきたい。
2	保護者と連携を図り支援につなげている。	・親の会との連携により、環境整備や親子合同行事、研修と開催された。子ども中心において、共に手を取り合っていきたい ・活動に対して、保護者の理解と協力が支えられ執り行っていることに感謝している ・子どもの成長や子育ての悩みについて、どんなことでも話せる場でありたい。	・親の会との更なる連携を図ること。 ・子育ての中で、喜びや悩みや困り感等を話せる場所となるようによりよい環境となり様に努め、専門性の向上を高めていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の自然災害発生に備えた保護者への説明や備蓄品の等、検討をする必要がある。	・非常時の際の安全マニュアルを活用し、職員の共通理解と保護者との避難所等に関わる内容を共有していく必要がある。	・隣接する子ども家庭支援センターみらいとBCP(事業継続計画)の研修、訓練の実施を定期的に行い非常災害に備え子どもの安全確保、保護者への周知に取り組む必要がある。
2	地域との交流に関する検討をする。	・地域とどのような交流を持っていくことが、望ましいか意見を出し合って話し合いを重ねていく必要がある。	・活動時に公共施設で一緒に遊ぶ機会等があるが、今後も心地よいふれあいの場を設けていきたい。 ・毎年、保護者からの案内で地域の学校へ音楽演奏会を鑑賞する機会を設けてもらった。 ・避難訓練時の近隣の方への発信を再度、取り組んでいく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子ども家庭支援センターゆめわかば

公表日 年月日 2025年2月27日

利用児童数 21名 年月日 2025年2月28日

回収数 21

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	21				・室内、外共に十分なスペースが確保されている。 ・2階にも部屋があり、広いと思う。	・活動するスペースを有効に使えるように環境を整え確保に努めていきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	4			・スタッフの皆さんが、休みを確保できていれらると思う。	・ありがとうございます。職員の配置数については、基準に基づいて満たしてはありますが、安全につながるよう努めていきます。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	3		1	・子どもに分かりやすく構造化されている、安全に配慮されている。 ・トイレは、バリアフリーになっている。 ・階段しかないので、車椅子への移動はどのようにしているのか。	・階段の移動に関しては、手すりが備えられていますが、身体的機能に応じて介助体制を複数にして強化しています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20			1	・心地よく過ごせている。 ・清潔で日当たりもよく明るい。	・毎日の清掃、消毒と月1度の衛生点検を実施しています。感染防止策等にも努めていきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	1			・子どもの特性に応じた支援をしております。	・日々の活動の中で、見られる一人一人の言動から内面を読み取り、職員一丸となり対応に取り組んでいきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19	1		1		・支援プログラムに関して、内容を吟味していき提供していきます。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21				・子どものことを理解した内容になっている。	・保護者面談、子どもを中心において日常の様子から見られる、成長と課題を分析して状態に則した計画を立てていきます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1				・提供すべき支援内容について、保護者との面談や状況に応じて適切な設定となるように努めていきます。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21					・計画する上で、職員間で検討会議を実施しております。支援の在り方に疑問点等、お気づきの点がございましたらいつでもお声掛けください。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	1		1	・多くの活動プログラムがあり、日によって沢山の経験が出来る。 ・毎日違うプログラムである。	・子どもの興味、関心を踏まえ季節を通して、より豊かな体験できる活動を職員と検討合い取り組んでいきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	7	8	1	5	・時間帯や子ども特性などから難しいと思う。近隣の児童クラブに声を掛けるのはアリかとは思う。 ・ないように思う。	・交流活動については、様々なご意見がありがたいと思います。子どもの関係性について、状況に応じた関わりを工夫していきます。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	1			・丁寧な説明がありました。	・契約時等で、説明をさせていただいておりますが、ご不明な点がないように説明を行ってまいります。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21					・面談を通して、支援内容について説明をさせていただいておりますが、ご不明な点等、ありましたらいつでもお声掛けください。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	21					・親の会を中心に家族に参加できる企画や研修を実施しました。保護者の方が交流の持てる場を提供していきます。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	21				・迎える時にその日のことを詳しく説明を受けている。	・保護者の方には、日頃の子どもの状況についてお話いただいていることに感謝しております。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21					・定期的な面談に限らず家庭、学校での子どもの変化した様子をお伝えいただく時があります。困り感や疑問を持たれた際は、いつでもお声掛けください。共に考えていき安心した生活につながるようと考えていきます。

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援がされていると思いますか。	21				・成長過程にいる子どもの姿は、様々な活動の中でも職員間で共有し内面を理解した対応を心掛けています。子どもの言動から見られる発達要求とは、何かを保護者と共感できるように努めています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	2	1	2	・親子合同行事の開催により、きょうだい児も一緒に参加できてよかった。 ・親子合同行事として、第1回は川遊び、2回目は、羽釜を使って米炊きと豚汁作り、親子で鬼ごっこを実施しました。状況によっては、参加が困難な家庭もあったかと思えます。交流の機会を設けられるよう検討していきます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	2			・子どもや保護者からの相談等、申し入れに対して迅速に対応できるように心がけていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21				・子どもが、意思表示できる環境と関係性を築くと共に保護者からの意見や情報を職員間で共有し対応していきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	2			・毎月の通信で、活動や行事などを発信されている。 ・ホームページやSNSは、活用されていない。 ・定期的な通信及び行事等の情報を随時、配布しています。 ・法人のホームページに関しては、発信をしておりますが、SNS等については検討していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	1			・第三者の目に触れることのないよう取り扱いには、十分に気を付けていきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	2		2	・実勢しているかとは、思います。親の会などで、報告済みかもしれないが確認をしたことがない。 ・各種マニュアルを策定し、例年職員への周知を行っています。研修、訓練（シュミレーション）を定期的に行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	1			・定期的に避難訓練がある。 ・非常災害に備え隣接の子ども家庭センターみらいと連携を図り、研修、訓練を執り行っています。BCP（事業継続計画）の定期的な研修を重ねていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21				・年間2回の避難訓練及び年間を通して各曜日にも避難訓練を実施しており、今後も安全確保に努めていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	1			・事故等が発生した際には、迅速に状況説明をしています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20	1			・場所への苦手さのあるタイプだが、安心して通所している。 ・安心して過ごせる場であるよう職員一同、子どもの状態を把握していき内面理解に取り組み対応していきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	3			・とても楽しみにしている。 ・思春期に入り、大人に近づいてきているのか、以前のように楽しみということ登園できよう活動の内容を検討し質を高めていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21				・子どもにとって、第3の居場所として、自分らしく過ごせる場であり、保護者にとっても安心して通わせられる場であるよう努めていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子ども家庭支援センターゆめわかば		公表日		2025年 2月 27日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		・適正となるようにシフト調整を行っている。 ・職員間で連携を図り、カバーしている部分はある。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		・館内は、バリアフリー化の構造である。 ・2階を使用する際は、転倒の無いよう手すりを設置し子どもの身体機能に応じて介助している。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		・毎日、室内及び子どものてに触れる物への消毒と清掃に取り組んでいる。 ・活動や利用児の人数によって、空間を考えている。	・実践後の清掃を丁寧にすることで、かなりの時間を要する。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		・子どもの状況に応じて、個別の部屋を使用できるようになっている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○		・職朝、実践前の打ち合わせを行うと共に毎月の職員会議及び実践検討会を設け意見を出し合う機会を設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○		・保護者からの評価表を公開し改善点や努力していく点等を職員間で話し合っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○		・毎日、職員が職朝の場で各自、発言の場を設けている。また、気付いた時点で、意見を出し改善につなげるようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・現在は、行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○		・法人内や事業所内、その他全国障害者研究会や九州ブロック会等、研修のアナウンスがあり受講しやすい環境にある。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		・毎日、実践する支援プログラムを作成し、子どもの把握をすると共にねらいを職員間で共有している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		○		・アセスメントを実施した上で、子どもの状態や保護者のニーズ等を踏まえて、職員間で検討会を行い支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○		・定期的な検討会議の他に保護者からの情報を職員全体で共有し、支援について共通理解につなげている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○		・計画作成にあたり、全職員が参画しており計画に沿った支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		・法人で統一したアセスメントツールを活用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		○		・子どもの状態や家庭の状況等を把握し、本人支援、家族支援、移行支援及び地域支援、地域連携を支援内容につなげるようにしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○		・毎日、実践前に活動プログラムを通して大事にすることなどを意見を出し合い、中身を深め取り組めるようにしている。	

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・活動に連続性を持たせながら活動の目的や意図、留意することに変化がある為、工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・子どもの特性や発達段階等、子どもに合った計画と作成をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・打ち合わせ時間を設定し必ず行っている。内容や役割分担等、不明瞭にならないように意見を出し合い確認しあっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・可能な限りその日に振り返りを行い、次への活動に活かせるようにしている。 ・時間が取れなかった時は、翌日に行っている。	・実践後、子どもの降園後に時間を取れない状況もある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・記録の記録が徹底されるように担当者が、声掛けをしている。子どもの状態を職員で共有し分析を行い対応につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・定期的なモニタリングを実施し、一人一人の計画内容について、検討会を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		・子ども一人一人が日常生活において、手ごたえを感じる成功体験や多様な遊びや余暇が楽しさにつながり、充実した時間が過ごせるよう取り組んでいる。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・活動を作成する中で、子どもの状態、興味関心に視点を置いて、選択、決定の場を設けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・子どもの状況を理解している職員及び児童発達支援管理責任者や管理者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・子どもの状況に応じて、学校や医療機関、県子ども総合療育センター等と連携を図っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・随時、適切に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・入園前に児童発達支援事業所に訪問し子どもの状態や詳細について、引継ぎを行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		・情報を提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・必要に応じて連絡を入れて助言を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		・児童館等での交流や活動の企画は実施しなかったが、地域の公園で一緒に鬼ごっこをしたり、地域の学校へ出向き児童の演奏会を鑑賞した。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・迎えの際に保護者へ一人一人にその日の活動の様子を伝えたと共に保護者からの話を聞き取り、困り感に対して対応している。 ・保護者と連携を密にとり、共通理解出来るように心がけている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・親の会と連携を図り、研修会を実施した。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約の際に説明をしている。また、入園前のオリエンテーションの際に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・定期的な面談の際に子どもや保護者の意思を丁寧に聞き取り対応すると共に考慮されていたか確認をしている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・計画内容の意図を項目ごとに説明し確認のもと同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・家族等からの子育ての悩みに対して、面談や電話での相談等に対応している。	・卒園したきょうだい児に対する悩み等に対して、できる限りの対応をしたい思いがある中、地域の中学校、高校への不登校に対する支援に困難さを痛感している。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・親の会と連携を図り、行事の企画を実施しきょうだい児の参加があった。 ・親の会主催の研修会が行われ、会場提供と職員も参加し内容を共有した。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・苦情対応について、職員間で共有し迅速かつ適切に対応するようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月、活動や行事の通信と必要に応じて配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・職員間で共有し情報の取り扱いに対応している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・それぞれの子どもとのコミュニケーションツールを職員間で共有すると共に個々の意思を尊重した対応を図れるように実践検討会等で取り上げている。また、保護者に対して、個別に声をかけ情報を共有するようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・病弱な子どもの利用や感染症等の観点から、事業運営の在り方について検討している。	・コロナ禍以降、地域との交流が薄くなった。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・各マニュアルを作成し職員に周知している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・業務継続計画（BCP）を策定し、隣接する「子ども家庭支援センターみらい」と合同で非常災害を想定した研修、訓練（シミュレーション）を行った。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・契約時に児童表の服薬等の欄に記載を依頼し職員で共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・契約時に保護者からの情報提供により、職員で共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・例年、安全点検箇所の一覧表を基に毎月、担当の箇所を職員で点検し修繕や危険な箇所を迅速に法人内の営繕担当者に報告し修理をしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・安全計画について、保護者との連携を図っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・随時、報告を職員間で共有している。同時に同法人内の学齢期事業へも報告している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待防止に関する研修を実施し情報、啓発に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・現在、身体拘束を要する対象者はいない。		